

冬野菜がやってきた！

美味しかった夏野菜が終わり、実りの秋とは言うものの野菜の穫れない端境期（はざかいき）が過ぎ、いよいよ冬野菜がやってきました。大根や人参もどんどん大きくなり、本格的な冬の訪れを野菜を通して感じています。冬野菜は地味なイメージがありますが意外に色鮮やかでわくわくしますし、じんわり滋味深い味が何ともありがたい。赤かぶ、黒大根、紫大根、黄にんじん、紫にんじなどカラフルな根菜でピクルスを作っている時はあまりの美しさに毎回ため息がでます。自然のちからはすごい。そして去年の事を思い出し、時間の流れの早さに毎度の事ながら驚くのが楽しかったり。元気に一年過ごせたことに感謝し、寒い冬もがんばって乗り越えましょう！



1 Cafe x 1 Farmer

1Cafe x 1Farmerとは、ソーシャル・キッチンが「循環型飲食店」を目指して滋賀県椋川の有機農家、水本さんと協同で取り組んでいるプログラムです。有機農業のサイクルに合わせたメニューづくりをおこない、環境に不可をかけない飲食店になるための仕組みづくりを実験しています。そして飲食店とその利用者、そして農家が共に支え合う関係を築いていきたいと考えています。このプログラムの一環として、野菜市の開催や保存食の開発、生ゴミの堆肥化にも取り組んでいます。

ソーシャル・キッチンの

野菜市

11/11日 25日
12/9日 23日

★カフェ店内にて毎月第2・第4日曜開催
★9:00スタート(売り切れ次第終了)

11月販売(予定)の野菜

インゲン豆、モロッコインゲン、さつまいも、里芋、バターナッツ、日本南瓜、にんにく、鷹の爪唐辛子、春菊、水菜、人参、大根、赤大根

椋川の低農薬米(コシヒカリ)

1kgから量り売りします。
白米/玄米：450円/kg

1F Cafe 11:00-20:30 (L.O. 20:00)

*イベント開催時、またパーティーのご予約の場合は22:00まで営業します



Lunch,
Dinner,
Party,
Catering...

本日のおすすめセット	800円～	ホットコーヒー	400円
豚丼	700円	自家製ジンジャーエール	450円
ポタージュスープセット	800円	季節がわりのジュース	450円
季節野菜のピクルス	300円	ハートランドビール	500円
自家製パウンドケーキ	300円	グラスワイン	400円

Social Kitchenでは様々なシーンに合わせたケータリングや貸し切りパーティーも承っています。メニュー、予算など相談に応じます。詳しくはお問い合わせください。

Social Kitchen 21世紀の公民館 ソーシャル・キッチン

12月29日(土)～1月8日(火)までお正月休みをいただきます

■ 1F Cafe & Bookstore

Social Kitchenの心臓部として、朗らかで気持ちのいい場所、人が集い、会話や議論が生まれる場所です。保存食を使ったメニューを中心にしています。国内外のおもしろい印刷物を扱う「NOT PILLAR BOOKS」の出張販売所もあります。

◎ 11:00～20:30 (20:00ラストオーダー) ※イベント時は22:00まで営業 ◎ 月・火定休

■ 2F Space

誰でもレンタルできます。ミーティング、ダンス公演、勉強会、展覧会、音楽イベント、集会、レクチャー & ワークショップ、政治討論会、卓球(?)、子育てサークルなど。詳しくはお問い合わせください。

◎ 11:00～22:00 ◎ 月・火定休

■ 3F Share Office

京都市上京区相国寺門前町699 TEL: 075-201-1430 E-mail: info@hanareproject.net

www.hanareproject.net



烏丸中学校の角を東に。約100m先の丁字路を左に曲がってすぐ、3階建ての白い建物です。

Social Kitchen!

21世紀の公民館、ソーシャル・キッチンがお届けする地域新聞

2012.11-12

ソーシャル・キッチン新プロジェクト 「サバイバル / Survival」 始動!

ソーシャル・キッチンの経営を 利用者と一緒に考える!?

私設公民館ソーシャル・キッチンは、今年の9月で2周年を迎えました。3年目を迎えるにあたって、ソーシャル・キッチンを運営している団体であるhanareは「サバイバル / Survival」という新しいプロジェクトを始めます。このプロジェクトは、設立からの活動を振り返りながら、今までに直面した様々な問題点を整理、公表、共有することでソーシャル・キッチンという小さな実践と、そこから見えてくる社会の仕組みや世界の流れの両方について対話の場を開くというものです。

このプロジェクトは、主にウェブサイト上と、ソーシャル・キッチンで実施するレクチャーなど複数の催しから構成しますが、本紙『Social Kitchen News』でも連動して進めていきます。

そもそもこのプロジェクトを開始しようと思った理由は、独立した経済活動によって「表現の自由」が保障される公共的空間を運営し、その運営方法においても新しい組織のあり方や働き方を作ることが目的で始まったソーシャル・キッチンの経営状況がどんどん厳しくなりつつある現状を、どうやってサバイブ(生き抜く)してい

くのかを考える必然性があったからです。でも考えを進めていくにつれ、私たちが拠って立つ暮らし、文化芸術や教育、公共空間に対しての渴望、新しい働き方や組織のあり方、正当な交換に基づいた小さな経済という考え方そのものが、今の社会の中で生き残っていくのかという問題でもあったと考えました。そうなってくると、これはソーシャル・キッチンだけが生き残るといふ小さな話ではなくてきます。逆に言うと、私たちの暮らしに関わる文化、仕事、経済、生存、労働、表現の自由、政治、公共圏、というような手に負えないくらい根源的な事柄について、議論し、問い続けることがソーシャル・キッチンが生存していく上での大きなヒントになるのではないかと、そう思い至ったのです。

以下、このプロジェクトを始めるきっかけとなった疑問点をランダムにまとめました。ソーシャル・キッチン運営スタッフの独白です。

なんでソーシャル・キッチンは経済的に困り続けているの? この経済的困窮は単に私たちの経営努力が足りないから? それとももっと他にも要因が?



オープン以来、ソーシャル・キッチンの財政状況は不安定な状況が続いています。これは、デザイン、翻訳、カフェなどの「営利的な事業」で稼いだお金を、農業・環境事業、スペース運営などの「非営利的な事業」の運営費にあてるという考え方自体に無理があるのか。また、ソーシャル・キッチンが考える新しい組織形態や、「働く人=すべて経営者」という働き方が機能するためには、まだまだ時間が必要なのかもしれません。そして、私たちのような公的団体ではないグループが、自己資金によって公共的な施設を運営しようとすることそのものが、難しいことなのかもしれません。

ソーシャル・キッチン運営する難しさを口にする「お金儲けのセンスが足りない」「経営努力が足りない」、「社会的企業として利益を最大化できていない」というような反応が返ってくる場合があります。一方では「そうや

んなぁ」と納得しながら、もう一方で「経営努力」、「社会的企業」、「利益の最大化」という資本主義的な言葉に戸惑うことも事実です。今の日本社会では、独立した経済活動によってのみ「表現の自由」が保障されるという考えから、行政や企業の助成金にできるだけ頼らず、営利事業で必要な資金を得たいとする私たちの方針が、結果的に経済の競争の渦の中に自ら進んで入っていく、すなわち事業の成果や場所の存続が経済活動の成功／失敗によって決まってしまうという、ジレンマを抱えています。ソーシャル・キッチン日々の小さな商いをどうするのか？という緊急の問題と、大きな経済の仕組みの両方について考える必要を感じています。

ソーシャル・キッチンの理想としている公民館（雑多で、いろんな人が集まり、普段出会えない考えや表現に遭遇できる場所）は人が生きていくためにそもそも必要なんではないでしょうか？

消費でいろんな欲望が満たすことができ、ネット上で好きなことを発信できる今、何かを表現／表明する直接的な場所が、人の毎日の暮らしにとって本当に必要なものかどうか。運営する私たちは必要だと思ってソーシャル・キッチンをやっていますが、本当に必要なものかどうか自信がなくなったりもしま

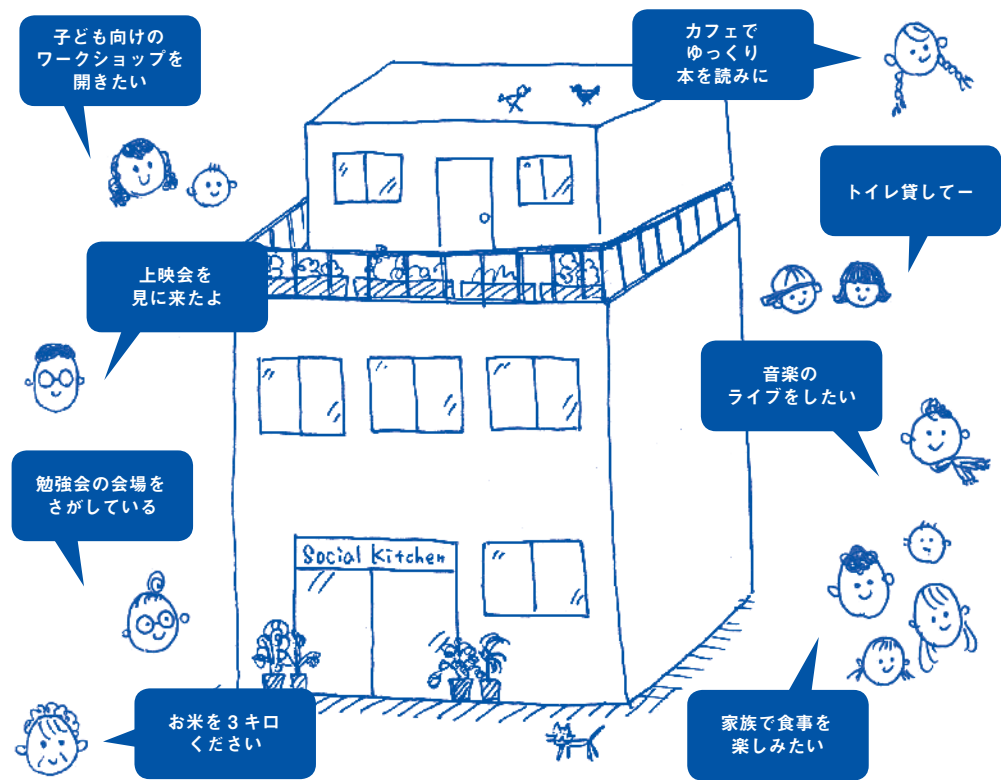
す。特に、文化・芸術や教育が経済的な物差しで必要／不必要と判断されている今の社会状況を見ると、人間が人間として生きていくための条件について考えてしまいます。

ソーシャル・キッチンが、利用者の生活にじわっと浸透し、なくてはならない場所になっていくには、ソーシャル・キッチンと利用者の関係がどうなることが理想的なのでしょう？

利用者の人にとって、「こういう場所があってよかった」「なんか救われた」と思ってもらえるために、まだまだ試

行錯誤が続いています。どうすれば、利用者と運営者の私たちの両方にとって、良き公民館となるのか、どこにそのバランスがあるのか探しています。運営側からは「おもしろいアイデアを持って来てください。運営にも口出しをしてください。1Fカフェにご飯を食べて、そして、お金に余裕があれば、寄付をしてください」といろいろお願いしたいことはあります。でも、そうしてもらえ場所になるためには、「こういう場所があったら助かります」という意見もたくさんもらえたら、勇気がわいてくるのでうれしいです。

(つづく)



ソーシャル・キッチンでは皆さまからの寄付金を募集しています。

ソーシャル・キッチンの活動に賛同し、応援したいという方からの寄付金を募集し、日々の活動資金に充て、もっと自由で、面白い場所を作っていけたらと思っています。みなさまからの協力・支援をお待ちしています。いただいた寄付金はソーシャル・キッチンの設備拡充・維持費、プロジェクトの運営資金などにあてさせていただきます。

金額	5千円／1万円／2万円／3万円／5万円／10万円 ※それ以上ももちろん大歓迎です。
運営団体	特定非営利活動法人 芸術生活研究所hanare
連絡先	MAIL : info@hanareproject.net、TEL : 075-201-1430
振込先	京都信用金庫鞍馬口支店 普通0686327 特定非営利活動法人芸術生活研究所hanare

※寄付をくださった方はお名前、ご住所、電話番号、メールアドレスをご連絡ください（任意）。年1～2回ほど、Social Kitchenからのご案内を送付させていただきます。

Event Schedule

■ ライブ「弦と唄」 青葉市子、phonolite strings

■ 予約: p-hour@leto.onet.ne.jpまで参加日、ご予約枚数、お名前、お電話番号を明記、件名に「弦と唄」を記入し、お送りください。



※11月18日0:00締め切り

■ 日時: 11月18日(日) 18:00 開演
■ 料金: 予約3,000円、当日3,500円(別途1ドリンクオーダー、中学生以下無料)
■ 企画: P-hour
■ 問合せ: 075-201-1430

■ 廣瀬純レクチャー: ディストピア零年 -No, We Can't! Another World Is Not Possible! 【第2回 勉強】

ディストピアを生き抜くための必読書、ジル・ドゥルーズ『意味の論理学』を読む。ドゥルーズが「革命」と区別して「革命的になること」と呼ぶものはいったい何なることなのか?

■ 講師: 廣瀬純
■ 日時: 11月22日(木) 19:30~
■ 申込み: 氏名、電話番号、メールアドレス(パソコンメール)を記載の上、メールをお送りください。
■ 料金: 500円~3,000円/1回(スライド制)
■ 企画: 須川咲子(hanare)
■ 問合せ: info@hanareproject.net

■ 英語教室 2012-2013

「英語を話せるようになりたい!」と思っている人は沢山います。



でも「英語を使って何を聞き、話すのか?」という当たり前のことを前提にした英語教室はあまり見当たりません。べらべら話せなくても、文法が間違っている、日本語が混じっていても、「話したい内容がある」人の言葉はちゃんと伝わります。この英語教室は、そんな人のための英語教室です。

※レッスンは2部で構成されています。1部でメインプログラムにおいて使用される英単語や語彙などを学習し、2部では特別講師によるユニークなレッスンを受けていただきます。1部、2部共にレッスンは英語で行われます。(ディスカッション+休憩30分有り)

1) アヴァンギャルド・オルタナティブ ミュージックの系譜

■ 特別講師: ドナルド・ザ・ナッツ
■ 日時: 11月23日(金) 14:30~17:00

2) ファッション ひらめきとかたち ~個人コレクションの回想から~

■ 特別講師: アキコ・ハマザキ・ラストユール
■ 日時: 12月1日(土) 14:30~17:00

3) アフリカ文化の家族観・結婚観

■ 特別講師: サミュエル・タファラ
■ 日時: 2013年1月19日(土) 15:00~17:30
■ 定員: 各回8名程度
■ 受講料: 4,000円/回
■ 申込: ご希望のレッスン、お名前、ご連絡先を明記のうえ、メールでお申し込みください。kanoikegami(at)mac.com
■ 企画: 池上カノ
■ 問合せ: kanoikegami@mac.com
■ 詳細: <http://hanareproject.net/event/2012/11/-2012-2013.php>

■ グルジア椅子 ワークショップ



グルジアのお父さんが一番最初に息子に教える大工仕事、この小さな椅子づくりです。その小さな椅子が集まると「場」が発生します。「場」が発生すると「言葉」が生まれます。グルジア椅子を廃材で作り、作った椅子に座りながら、あなたの話を聞かせてくれませんか?

■ 日時: 11月25日(日) 15:00~18:00
■ 料金: 500円(ワンドリンク付き)
■ 企画: 向井麻理、マイアミ、河本順子、ゲラ・パタシュリ

■ にじみ絵ワークショップ vol.5 「アートゲーム×にじみ絵」

世界のいろんなアート作品(油絵、彫刻、日本画、抽象画などの複製図版)をみて、自分のことばを見つけよう。それから、自分の中でできたイメージや、わき上がった気持ちを、にじみ絵にしてみよう。

■ 講師: 松川
■ 日時: 11月25日(日) 10:30~
■ 料金: 600円(ワンドリンク付き)、材料費400円
■ 対象: 乳幼児。小さなお子さまは、保護者さんと一緒にご参加ください。
■ 定員: 10組
■ 持ち物: ジャムなどの空きビン(あれば3つ)、ふであらい(バケツなどで可)、筆(小学生の方は学校で使っているもの、1から3本。小さなお子さまは、太い筆のほうが描きやすく、楽です。)、ぞうきん
■ 服装: よごれてもへいきな服で来てね!
■ 企画: 松川
■ 問合せ: mkhiro670@gmail.com

■ 西光祐輔写真集

『mound』出版記念イベント

■ 日時: 12月9日(日) 18時~21時
■ 参加費: 1,500円(ワンドリンク付き)
■ 出演: 西光祐輔、金氏徹平、飯川雄大、and more!

■ hyslom【ライブパーティー】

今回のライブパーティーでは「物質」に焦点をあてます。これまで探検を繰り返す中で発見してきた様々な道具をソーシャル・キッチンに持ち込み、来場者と一緒に音を作り出してみます。

■ 日時: 12月14日(金) 19:00~
12月15日(土) 18:00~
■ 入場料: 1,500円(ワンドリンク付き)
■ 企画: hanare
■ 協力: 遠藤水城
■ 問合せ: info@hanareproject.net

■ Moving+Drawing Second Round

からだで絵を描くワークショップ。佐伯有香(ダンサー/振付家)と荻谷昌江(現代美術家)の2人の異なる視点から、身体を動かすこと、描くことを体験していくワークショップです。全6回にわたって開催します。第2回目は地図を描くように空間に線を這わせていきます。何かと何かをつなぐ、境界、といった線が持つ役割や、日常にある見えにくいけど確かに感じる感覚的な線、なみなみ、ぐるぐる、結んだり、区切ったり、様々な線の可能性を空間キャンバスに投げ入れ、どんどん変化させていきます。変わりゆく空間にまた、からだはどう動かされるのでしょうか?

※通しでなくても、参加は可能です。

■ 講師: 佐伯有香、荻谷昌江
■ 日時: 12月23日(日)
18:00~21:00(受付開始 17:45~)
■ 定員: 10名ほど(予約優先) 経験不問
■ 料金: 3回通し: ¥5,000/毎回1ドリンク付(1回: ¥2,000円/1ドリンク付)
※3回チケットは後半でも使用可能です。
■ 使用画材: 紙、ペン、クレヨン、鉛筆
■ 持ってくるもの: 出来るだけ動きやすく汚れてもよい格好でご参加ください。画材はこちらでご用意いたします。
■ 主催: Moving+Drawing
■ 共催: hanare
■ 問合せ: 090-2781-9480(福井)
mail:moving.drawing@gmail.com
■ 詳細: <http://moving-drawing.net/>

イベントの詳細、また最新イベントについては
下記サイトをご覧ください
<http://hanareproject.net/event/>